

「第2回 皿倉山滑り台あり方検討会議」の結果報告について

皿倉山の滑り台の今後のあり方等を検討する「第2回 皿倉山滑り台あり方検討会議」を令和8年1月13日に開催したので、その結果について報告するもの。

1 開催概要

- (1) 日 時：令和8年1月13日（火） 15：45～16：30まで
場 所：ミクニワールドスタジアム 1階 会議室2
- (2) 構成員：上山信一、岡部聡、小鉢由美、高橋秀樹（リモート）
- (3) 内 容：調査・検討の報告

2 皿倉山滑り台の今後のあり方について

(1) 子ども（6歳～12歳）は自由利用

- ・ 市内の同型の滑り台で子どもの怪我の報告は皆無。全国にも323の設置実績があり、確認できた怪我事例は過去15年で1件のみ。
- ・ 滑り台は子どもに運動とリスクを学ばせる遊具として定着。子どもの怪我の発生は、社会制度上、許容できるリスクとして共通理解が確立できている。
- ・ 今回の大人の怪我の発生メカニズムは、大人に特有のもの。
- ・ 大人の怪我の発生を根拠に、全国各地で定着してきた子どもの自由利用を禁じるのは不合理。

(2) 夜間は子どもも大人も利用禁止

- ・ 暗くて着地点が見えず、動きのイメージや着地の準備に影響。
- ・ 滑走面に前の人がいったり、荷物、障害物があっても見えない。
- ・ 夜景に気を取られ、着地点や滑走面に対する注意が散漫になる。

(3) 大人の利用は禁止

- ・ 個々の大人の怪我事例を分析した結果、子どもとは異なる様々な要因によって、正しい姿勢で滑り、安全に着地することに失敗する場合があると分かった。
- ・ 注意喚起を強化すれば大人の怪我の発生は抑制できるが、徹底は困難と思われる。
- ・ 当該滑り台、及び市内にある同型の滑り台についても大人の利用は禁止すべき。

3 遊具全般に関する体系的な安全管理とリスクマネジメントの構築について

- ・ 皿倉山滑り台のあり方検討を行う中で見えてきた懸念をもとに、次の項目を中心に、遊具全般に関する安全管理とリスクマネジメントの仕組みについて検討する。
 - ・ リスクの予兆情報のスピーディーな収集
 - ・ 予兆情報を統合しスピーディーなアクションにつなげる仕組み
 - ・ 適時的確な情報公開と注意喚起

※ 議事要旨及び記者会見の要旨は別紙のとおり。